

1. 目次

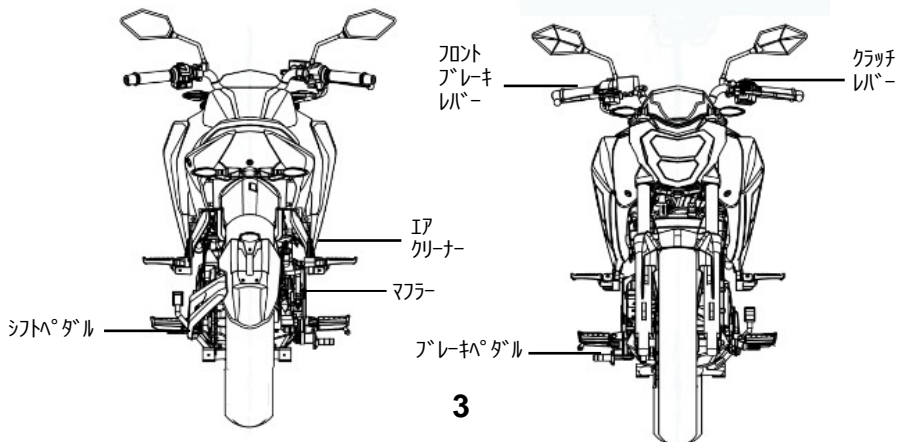
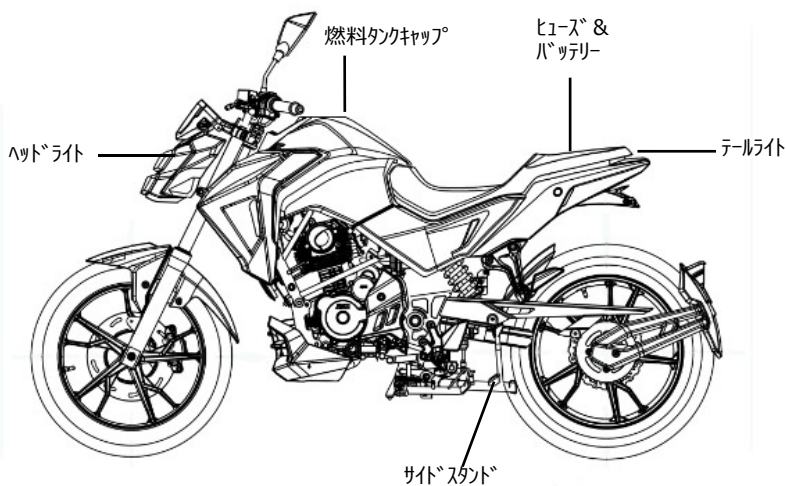
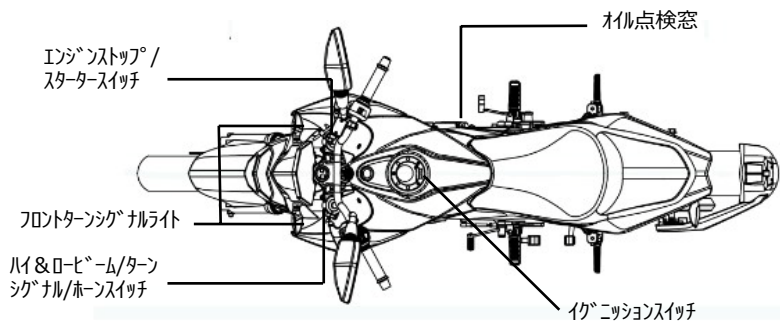
1. 目次	1
2. 各部の名称	3
3. お乗りになる前に.....	5
4. 安全運転	5
5. 運転	6
6. 純正部品の使用	6
7. 各部の操作方法	7
ゲージ類	7
イグニッションスイッチの操作	8
ハンドルロックスイッチの操作	9
各ボタンの使用方法.....	9
燃料タンクキャップ.....	10
リアショックアブソーバーの調整	11
ブレーキ	11
8. エンジン始動のための重点事項と注意点.....	11
9. オートバイに乗る.....	13
乗車の準備	13
坂道を運転する	14
トランスミッションの操作(ギアチェンジ)	14
正しい乗り方(好ましい発進方法).....	14
スロットルの操作.....	15
駐車方法	16
10. 乗車前点検とメンテナンス.....	17
日常点検	17
燃料点検	17
エンジンオイルの点検と交換	18
ブレーキの遊び点検.....	19
クラッチレバー	19
スロットルの遊びと調整.....	20
ドライブチェーン.....	20
タイヤの点検	21
フロントショックアブソーバーの点検.....	21
車両各部の潤滑点検.....	22
バッテリーの点検とメンテナンス	22

1. 目次

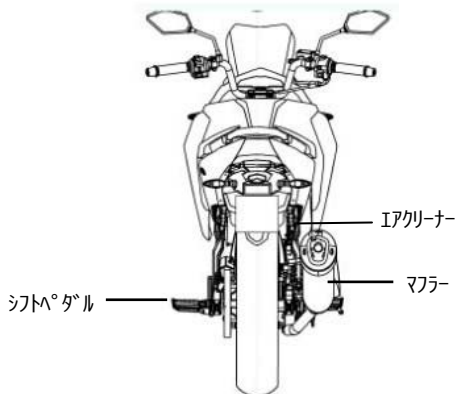
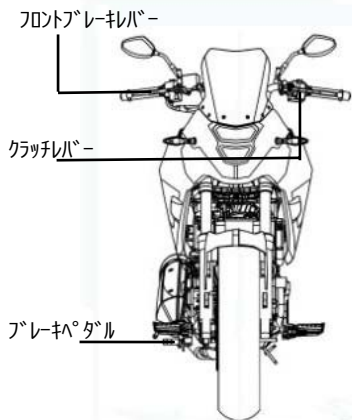
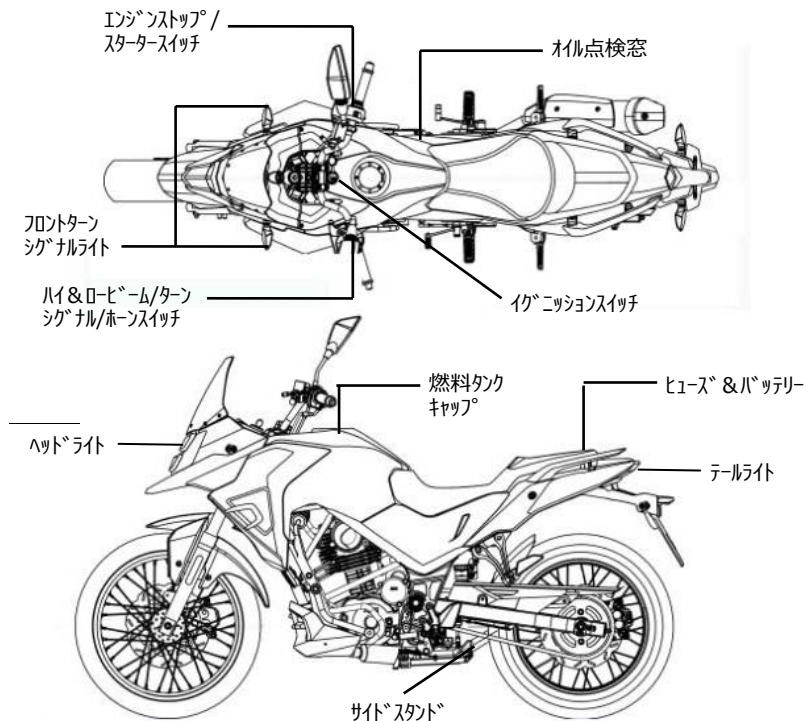
ヒューズの点検と交換	23
ターンシグナルライトとホーンの点検	24
ヘッドライトとテールライトの点検	24
ブレーキライトの点検	24
スパークプラグの点検	25
エアクリーナーの点検	25
ワイヤー部分のゴムキャップ	26
バックミラー	26
ライセンス(ナンバー)プレート	26
11. 異常や問題が起きた時(トラブルシューティング)	27
エンジンが始動しない時の診断	27
12. 推奨燃料について	27
13. オートバイに乗るときの注意	28
14. 定期メンテナンススケジュール	31
15. 仕様諸元	32
16. 保証約款	36

2. 各部の名称

モデル: ME12B2-EU/ME20BW-ZA



モデル: MG12B2-EU/MG20BW-ZA



3.お乗りになる前に

このマニュアルには、このオートバイを安全にお乗りいただくための正しい使用方法と、簡単な点検方法について記載されています。

より快適で安全にお乗りいただくために、このマニュアルをよくお読みください。

より詳しい情報をお知りになりたい方は、SYM正規販売店にお問い合わせいただき、作業手順書にて下記の項目をご確認ください。

- ・オートバイの正しい使用方法
- ・納車前検査とメンテナンス

日頃よりお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

スクーターのパフォーマンスを最大限に活かすために、定期点検やメンテナンスは必ず行っていただきますようお願いいたします。

新車ご購入後300km走行されましたら、販売店にお持ちいただき初回点検を受けてください。その後は、1000km走行するごとに定期点検を受けることをお勧めします。

- ・マニュアルやカタログに記載されている仕様や構造は、予告なく現行の車両や写真、図などが変更される場合がございますが、現行の車両の仕様や構造が優先されます。

4.安全運転

オートバイに乗るときは、窮屈でない、運転に適した服装を心がけ、交通の流れをよく把握して焦らず注意しながら運転することが重要です。

オートバイ購入後、初めのうちは概ね気を付けながら乗りますが、慣れてくると油断して事故を起こしやすくなる傾向にあります。

📖 覚え書き:

- ・オートバイに乗るときは、安全なヘルメットを被りしっかりと顎ひもをしめましょう。
- ・袖口の広いまたは緩い服は、走行中風をはらんでバタつき、ハンドルに引っ掛かったりして安全運転に影響を及ぼす可能性があります。
- ・袖口の締まっている服装を心がけましょう。
- ・走行中は絶対に片手運転はしないようにし、しっかりと両手でハンドルを握って運転しましょう。
- ・制限速度を守りましょう。
- ・運転に適した、ヒールの高すぎない靴を履きましょう。

予定表に従って、定期メンテナンスと点検をきちんと受けましょう。

⚠️ 警告!!

- ・後ろに人を乗せる際は、マフラーで火傷などしないように、両脚をきちんとステップに乗せるようにしましょう。
- ・走行後のマフラーは非常に熱くなっています。点検やメンテナンスをする際には十分に注意してください。
- ・走行後のマフラーは非常に熱くなっています。他の人がマフラーで火傷をしないように、オートバイを駐車させる際は場所につけましょう。

⚠️ 注意:

- ・オートバイの改造は、その構造やパフォーマンスに大きく影響し、エンジンの性能を低下させて騒音の原因になったり、車両の寿命を短くする原因になります。
- ・車両の元々のデザインや、仕様に適合しない改造は違法行為にあたります。
- ・それらの改造車両は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。

5. 運転

とっさの出来事に素早く対処できるように、腕や手、腰に力を入れすぎず、常に余裕を持った姿勢で運転するようにしましょう。

ライダーの姿勢は、安全運転に大きく影響してきます。いつも身体の重心はシートの中央に来るようにしましょう。もし身体の重心がシートの後ろの方にかかる、フロントへの荷重が不足してハンドルの振れを招きとても危険です。

コーナーでは、身体を内側に傾けると曲がり易くなります。

そうしないと、コーナリングが安定しません。

スクーターは、凸凹の、整備されていない未舗装路では非常にコントロールが難しくなります。

路面状況を出来るだけ早く把握し速度を落として、ハンドルを取られないようにしっかりと握って運転しましょう。

アドバイス: ハンドル操作の邪魔になり、安全運転の妨げになりますので、

足元には荷物を置かないようにしましょう。



注意:

積載があるときと無いときでは、ハンドルの感覚が若干変わってきます。過積載はハンドルの振れを引き起こし、安全運転に影響を及ぼします。過積載は行わないでください。



注意:

- 火災を起こす可能性がありますので、ボロ布のような可燃物をボディのサイドカバーとエンジンの中に入れてたりしないでください。
- 車体への損傷を防ぐため、荷物入れでない所に荷物を入れてたりしないでください。

助言

オートバイの性能を最良の状態でき長くお乗りいただくために:

慣らし運転の最初のヶ月または初回走行距離が1000kmくらいまでは、エンジンやその他の機器のために、急にアクセルを開けることは避け、60km以下のスピードで走行するようにしましょう。

6. 純正部品の使用

オートバイを最良の状態でお乗りいただくために、各部パーツの品質、素材、精密機器部品などには必ず適合するものを使用してください。“**純正部品**”はオートバイのオリジナル部品と同じ品質で作られています。品質検査に合格したもの以外は市場に出回らないよう厳しく管理されています。“**SYM 純正部品**”は、“**SYM 正規販売店**”にてご購入・交換をしてください。純正部品でない安価なものや類似品を使用されますと、スクーターの性能を下げる恐れがあり、またそれらに関して起こった不具合には一切保証は適用されませんのでご注意ください。

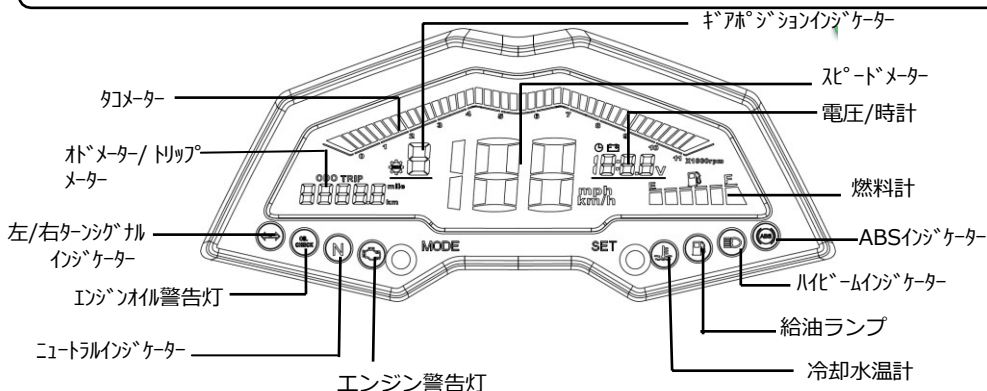
- ・オートバイを常に最良の状態に保ち長くお乗りいただくために、必ずSYM純正部品をご使用ください。

7.各部の操作方法

(以下は、4ストローク空冷バイクの基本の操作方法です。各モデルによって異なる部分がありますので、巻末を参照してください。)

§ゲージ類§

スピードメーターパネルの形状は、各モデルにより多少の違いはありますが、概ね表示項目の位置は同じです。



⚠ 注意:

プラスチック表面を傷つける恐れがありますので、機器パネルやヘッドライトなどの表面を、ガソリンのような有機溶剤で拭かないでください。

- **スピードメーター:**
走行速度を表します (km/h)。
- **オドメーター:**
総走行距離を表します。
- **トリップメーター:**
区間走行距離を計ることができます。
- **タコメーター:**
エンジン回転数を表します。
- **ハイビームインジケーター:**
ヘッドライトをハイビームにすると点灯します。
- **ターン(左/右)シグナルインジケーター:**
ターンシグナルスイッチを入れると、同方向を示すインジケーターが点滅します。
- **ニュートラルインジケーター:**
ギヤをニュートラルにシフトさせると点灯します。
- **ギヤポジションインジケーター:**
ギヤのポジション(何速か)を示します。
- **エンジン警告灯:**
ECU(エンジンコントロールユニット)に何か異常がある際に点灯します。
- **燃料計:**
タンク内の燃料残量を示します。
- **ABSインジケーター:**
ABSインジケーターライトは、通常イグニッションスイッチをオンにすると点灯し、その後オートバイが走り出すとすぐに消灯します。ABS(アンチロックブレーキシステム)が正常に機能していれば、消灯したままですが、機能に何か不具合があるとインジケーターが点灯したままになります。不具合が起きるとABSは作動しませんが、通常のブレーキシステムの機能には影響ありません。

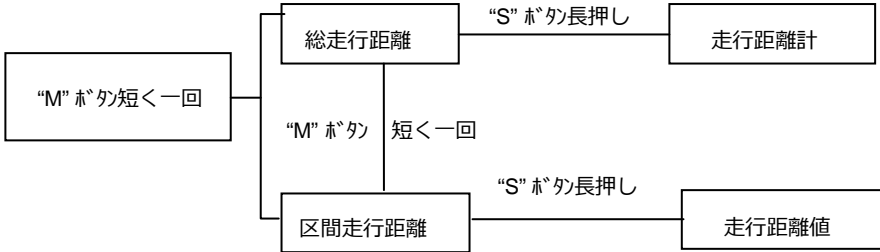
エンジンオイル警告灯

車両がおよそ1,000km走行すると、オイル警告灯が点灯しエンジンオイルの点検、交換時期であることを知らせてくれます。オイルの交換が終了したら、キーをオンにして“M” ボタンを2秒以上押すと、警告灯は消灯します。

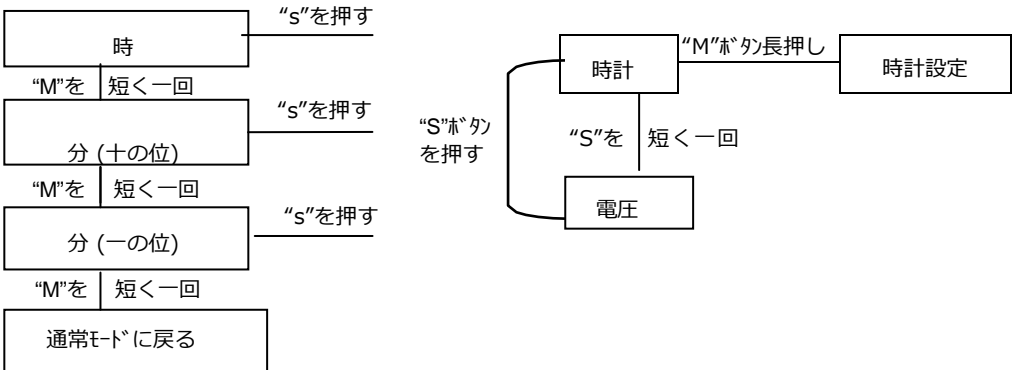
冷却水温警告灯(水温計):(MG20BW-ZA/ME20BW-ZAモデルのみ)

エンジンの冷却水の水温を示します。もしこのライトが点灯した時は、冷却水は十分であるか、ファンは回っているか確認してください。

走行距離計の設定



時計の設定



燃料切れ警告灯(給油ランプ):

タンク内の燃料残量が底をついてくると、警告灯が点灯します。

冷却水温警告灯(水温計):

エンジンの冷却水温度を示します。もし水温警告灯が点灯した場合は、冷却水は十分か、ファンは機能しているか確認してください。

§イグニッションスイッチの操作§



“ON” 位置:

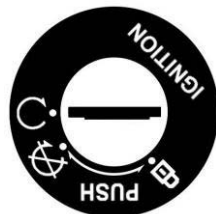
- ・この位置でエンジンが始動でき、ライト類が点灯します。
- ・イグニッションキーは抜き取れません。



“OFF” 位置:

- ・エンジンとライト類は停止・消灯され、エンジンをかけることはできません。
- ・イグニッションキーは抜き取れます。

イグニッションスイッチ



§ハンドルロックスイッチの操作§

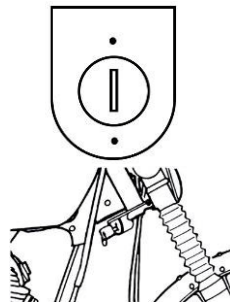


“ステアリングハンドロック”位置

- ハンドルを左に回し、キーをイグニッションスイッチに差し込んで押し下げ、そのまま“LOCK”の位置に回して合わせます。
- ハンドルはこの位置でロックされます。
- イグニッションキーは抜き取ることができます。
- ロックを解除するときは、キーを“LOCK”から“OFF”に回します。

ハンドルロックは、ハンドルのステム(軸)のステアリングヘッドの下にも直接鍵がありロックできます。

- ハンドルを左いっぱい回す。
- キーを鍵穴に差し込みます。
- 時計回りにキーを回すと、ハンドルはロックされます。
- キーを忘れずに抜き取ります。
- 解除するときは、キーを反時計回りに回すだけです。



ハンドルロック

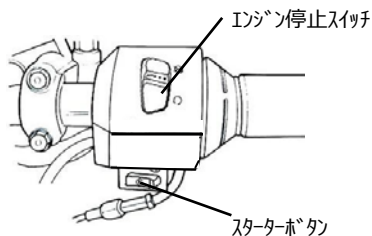
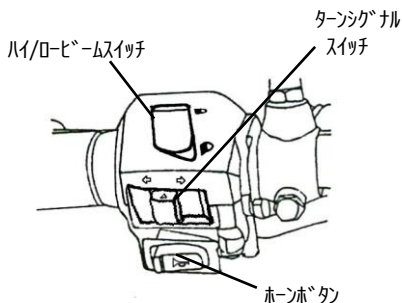
備考:

- 車両の盗難を防ぐために、駐車する時は必ずハンドルをロックしましょう。
- ロック後、ハンドルを動かしてみても、固定されているか確認してください。
- 車両から離れるさいは、忘れずにキーを抜き取りましょう。

⚠ 注意:

- 走行中は絶対にイグニッションキーの操作をしないでください。走行中にイグニッションキーを“OFF”の位置にすると、電気系統システムが全てシャットダウンし、危険な事故の原因になります。イグニッションキーをオフにするときは、必ずエンジンを停止させてからにしてください。
- オートバイの盗難を防ぐために、駐車するときは必ずハンドルをロックしてください。
- 車両を安全な場所に駐車させて、ハンドルをロックしたら、常にキーは忘れずに抜き取るようにしましょう。
- エンジンを停止させてから、イグニッションスイッチを“ON”位置にしたまま長い間放置しておくと、バッテリーが放電してしまいエンジンがかからなくなる恐れがあります。

§各ボタンの使用方法§



• エンジン停止スイッチ



緊急時、この位置にスイッチを切り替えるとエンジンが停止します。



この位置に切り替えるとエンジンを始動することができます。

・スターターボタン



スターター(セル)ボタンはエンジンを始動するためのスイッチです。メインスイッチを“ON”にしてこのボタンを軽く押すと、エンジンが始動します。

⚠ 注意:

- ・ エンジンが始動したら、速やかにボタンを押すのをやめましょう。エンジン始動後もボタンを押し続けると、エンジンに損傷を与える恐れがあります。
- ・ 安全機能が働いているため、クラッチレバーを握るか、あるいはギヤをニュートラルに入れていないと、エンジンは始動しません。

・ハイ/ロー ビーム スイッチ

ヘッドライトの、ハイとローの切り替えスイッチです。ハイとローに押しかえることで切り替えができます。



ハイビーム



ロービーム (市中を走行するときは、ロービームにしましょう)

・ホーンボタン



イグニッションスイッチが“ON”のとき、このボタンを押すとホーンが鳴ります。

⚠ 注意: 必要なとき以外、むやみにホーンを鳴らさないようにしましょう。

・ターンシグナルスイッチ

右左折、または車線変更の際にターンシグナルスイッチを使用します。

イグニッションスイッチを“ON”にして、ターンシグナルスイッチを左または右にスライドさせるインジケーターが点滅します。

消灯させるには、スイッチを元の位置に戻します。



この矢印の点滅は、右折方向を指していることを意味します。



この矢印の点滅は、左折方向を指していることを意味します。

§燃料タンクキャップ§

1. イグニッションキーを燃料タンクキャップの鍵穴に差し込み、時計回りに回してキャップを取り外します。
2. 給油のさいは、上限ラインを越えないように気をつけてください。
3. キャップの“△”マークを前方にして合わせ、タンクに戻したらキーを反時計回りに回してロックします。閉めたらキーを抜くのを忘れないようにしましょう。

⚠ 注意:

- ・ 給油のさいは、エンジンを停止させメインスタンドをしっかりと地面に立てて車両を静置させます。火気厳禁、火の気のあるものは絶対に近づけないでください。
- ・ 上限ラインを越えて給油しないように気をつけましょう。吹きこぼれはタンクの塗装を傷つけるだけでなく、火災を引き起こす原因になります。
- ・ 給油後はキャップをしっかりと閉めるましょう。

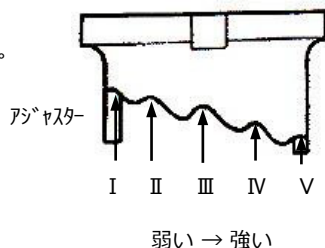


§リアショックアブソーバーの調整§

*モデルによって調整機構が省かれているものもあります。

アブソーバーの調整は5段階に分かれています。

- ・I: 通常的位置(荷重は軽く、路面状態が良い場合)
- ・II~V: 段階的にスプリングの負荷が上がり(強くなり)ます。



調整の方法: 荷重は重く、路面状態が悪い場合。

- ・数字を上げて(強くして)、好みの強さに調整。

⚠ 注意:

- ・強さの調整は、左右同じになるように注意してください。

§ブレーキ§

- ・必要のない急ブレーキは避けましょう。
- ・出来るだけ、前後ブレーキを同時にかけましょう。
- ・長時間にわたり断続的なブレーキをかけ続けると、オーバーヒートを起こしてブレーキがかからなくなることがあります。
- ・雨の日の滑りやすい路面では、速度を落とし早めのブレーキを心がけましょう。滑って転倒する恐れがありますので、急ブレーキは出来るだけ避けましょう。
- ・前後どちらかのブレーキだけをかけると、車両の片方にだけ制動がかかりバランスを崩して転倒するリスクが高まります。
- ・ブレーキペダルを踏むと、前後ブレーキが同時にかかります(CBSモデルのみ)。
- ・ABSが装備されていても、コーナー(カーブ)でのブレーキはスリップの恐れがあります。コーナー(カーブ)の途中では、軽い両ブレーキか、またはブレーキは全くかけない方が良いでしょう。いずれにしても、コーナーに侵入する前には十分に速度を落としましょう。

《エンジンブレーキ》

スロットルを戻すとエンジンブレーキがかかります。

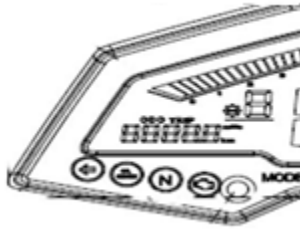
長い坂や急な坂を走行するときは、前後同時に断続的なブレーキをかけてください。

8.エンジンの始動のための重点事項と注意点

(以下は、4ストローク空冷バイクの基本の操作方法です。各モデルによって異なる部分がありますので、ご自分の愛車の仕様を販売店にご確認ください。)

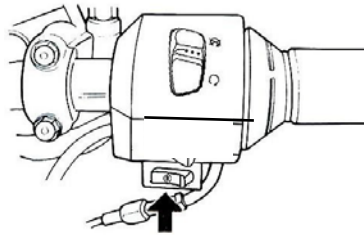
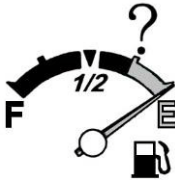


注意: エンジンを始動させる前に、必ずオイルレベル及びガソリンレベルを確認しましょう。また、エンジンはよく換気された場所で始動しましょう。



1. キーを差し込み、イグニッションスイッチを“ON”の位置にします。

2. ギアをニュートラルに入れます。ニュートラルインジケーター(緑)が点灯します。



3. 燃料は十分に入っていますか？

4. スロットルは開けずに、スターターボタンを押します。



注意:

- エンジンが始動したら、速やかにスターターボタンを離してください。
- エンジンがかかっている時には、絶対にスターターボタンを押さないでください。
- 3~4回(スターボタ)試してもエンジンがかからない時は、スロットルを少し開けながら行ってください。
- エンジン始動後2~3分暖機運転をしたら、チョークレバーを元に戻します。



注意:

- スターターボタンを3~4秒押してもエンジンがかからない場合は、スロットルを1/8~1/4ほど開けた状態でスターターボタンを押してみてください。
- モーターの損傷を防ぐため、スターターボタンは15秒以上続けて押さないでください。
- スターターボタンを15秒以上押してもエンジンがかからない場合は、再び試す前に10秒以上間を置くようにしてください。
- 長い間エンジンをかけずにいたり、ガス欠してしまった後は、非常にエンジンがかかりにくくなります。そのような場合は、スロットルを閉じた状態でスターターボタンを何度か押してエンジンを始動させてください。
- 外気温が低い場合などは、数分間の暖機運転が必要です。
- 排気は有害な物質(CO)を含んでいます。エンジンの始動は換気の良い場所で行いましょう。

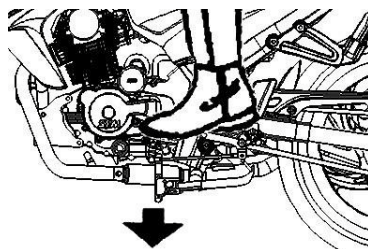
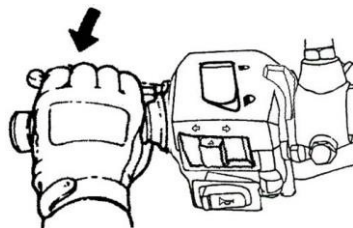
9. オートバイに乗る

§乗車の準備§

- ブレーキや、タイヤ空気圧を確認してください。
- 車両の左側から乗車し、車両が倒れないように地面に足をしっかりつけましょう。
- エンジンをかけ、暖気運転をします。

1. クラッチレバーをいっぱい握り、シフトペダルを一速(ロー)に踏み下げます。

2. ゆっくりとクラッチレバーを戻しながら、同時にスロットルを静かに開けてオートバイを発進させましょう。



⚠ 注意:

- エンジン始動後、発進するさいはスロットルをいきなり開けて急発進することのないように気をつけてください。
- 速度に合ったギアで走行してください。
- 速度とギアの関係については、右の表を参照してください。
- 右表のギアと速度の関係は、エンジンの最適なパフォーマンスと燃費を基準に作成しています。

速度	20	40	60	80	100	120	140
1 st gear	■	■	■	■	■	■	■
2 nd gear		■	■	■	■	■	■
3 rd gear			■	■	■	■	■
4 th gear				■	■	■	■
5 th gear					■	■	■

⚠ 注意:

- エンジンが停止しているときは、シフト操作を行わないでください。
- トランスミッションを傷つける恐れがありますので、シフト操作は丁寧にいきましょう。
- 他車を追い越すさいは、速度に気をつけましょう。

⚠ 注意:

車両をより長くお使いいただくためにも、初めの走行距離1000kmまでは(慣らし期間)、なるべく低速で走行して様子を見るようにしてください。

- 走行距離が300kmに達したら、エンジンオイルを交換しオイルフィルターを清掃しましょう。
- エンジンオイル交換直後は、低速で走行して様子を見ることをお勧めします。
- 発進する前には、エンジンの暖機を行ってください。

§坂道を運転する§

上り坂

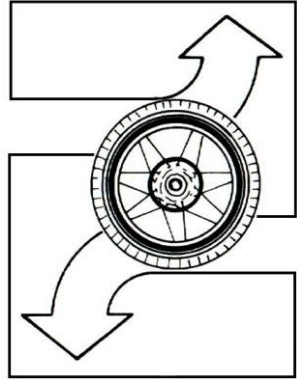
ごく緩やかな上り坂であれば高速ギアでも走行できますが、路面状況が悪い場合や急な坂道を上がる時は低速ギアで走行してください。

下り坂

緩やかな下り坂を走行するときは、スロットルを閉じてブレーキをかけながら下ります。路面状況が悪い場合や急な下り坂を下るときは、ギアを低速に落としてゆっくり走行しましょう。

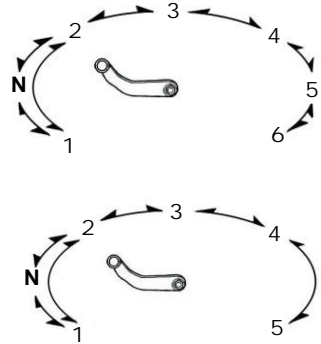
▲ 注意:

- ブレーキをかけるときは、前後両方のブレーキを一緒にかけるようにしましょう。



§トランスミッションの操作(ギアチェンジ)§

- チェンジペダルはエンジンの左側にあります。平坦でない、あるいは下り坂は、低めのギアで走行しましょう。
- クラッチレバーをいっぱいに握り、チェンジペダルで適切なギアに入れます。丁寧にクラッチレバーを離しながらギアチェンジします。
- エンジンが停止しているときは、トランスミッション操作は行わないでください。
- トランスミッションを傷つける恐れがありますので、チェンジペダルは丁寧に操作しましょう。
- 他車を追い越すときは、ギアを一つ下げて速度を抑えて追い越すようにしましょう。



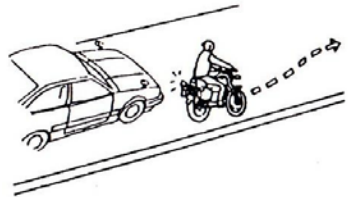
シフトと速度の関係(目安)は以下です。

5 th → 4 th	80km/h以下
4 th → 3 rd	70km/h以下
3 rd → 2 nd	50km/h以下
2 nd → 1 st	25km/h以下

§正しい乗り方§

正しい発進方法

- ターニングナルを点滅させ、前後(特に後方)に他車がないことを確認して発進します。



§スロットルの操作§

加速：速度を上げる。

傾斜(上り)のある道路を走行するときは、
ゆっくりとスロットルを開けてエンジン出力を
上げて加速します。

減速：速度を下げる。



**エンジンを良好な状態で長持ちさせるため
にも、慣らし期間中は速度を抑えて走行し、
エンジンを慣らしましょう。**

最初の一ヶ月、あるいは最初の1000kmは、速度を
60km/h以下に抑えて走行しましょう。

急激な加速は避けてください。

アイドリング中にスロットルを全開(RPM8000以上)に
しないでください。

**急ブレーキや急旋回はけっしてしないでくだ
さい。**

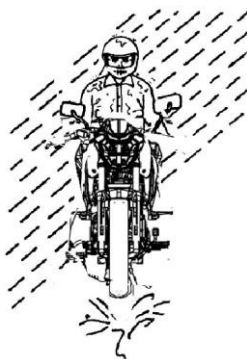
過激なブレーキ操作や急旋回は、タイヤがスリップ
する原因になります。

濡れた路面または雨の日の走行で、急ブレーキや
急旋回を行うとタイヤがスリップし、オートバイ
のコントロールが効かなくなります。

**雨の日は細心の注意を払って走行しまし
よう。**

濡れた路面や雨の日の走行は、オートバイの制動距
離が伸びます。速度をおさえて走行し、早めのブレ
ーキを心がけましょう。

シフトダウンするときは、スロットルを完全に閉
じて前後両ブレーキをかけながら減速しましょう。



§駐車方法§

前後、両ブレーキを同時に使しましょう。

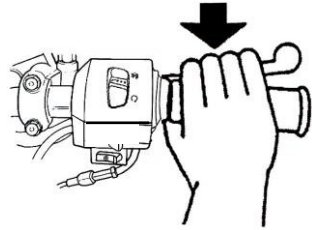
- スロットルを閉じてブレーキレバーを握ります。
- 最初は軽く徐々にブレーキをかけていき、最後はしっかりとレバーを握ります。

⚠ 注意:

- どちらか一方のブレーキだけを使用すると、タイヤのスリップを招きやすくなります。

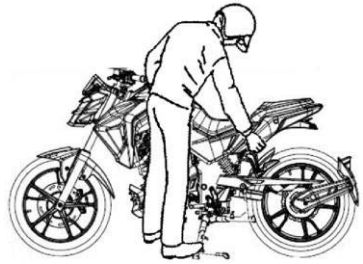
• 駐車スペースに近づいたら:

1. ターンシグナルライトを早めに点灯させます。車両の前後左右に注意しながら、内側の車線(路肩側、停車位置に近い車線)にゆっくりと車両を寄せます。
2. スロットルを戻し、早めのブレーキをかけます(ブレーキランプが点灯し、後続車に知らせることができます)。



• 完全に停車(駐車)させる:

3. ターンシグナルスイッチを押し戻して消灯し、イグニッションスイッチキーも“OFF”にしてエンジンを停止させます。
4. エンジンを停止させたのち、車両の左側から降車します。交通や周囲の妨げになっていないか、平坦な場所かを確認してメインスタンドを下げます。
5. 左手でハンドルを、右手でシートの前の端か左下のパーキングハンドル(グラブバー)をつかみます。
6. 右足でメインスタンドを押し下げて、しっかりと地面に設置します。



忘れずに: ハンドルをロックし駐車させたら、車両の盗難を防ぐために、必ずキーを抜き取りましょう。



⚠ 注意:

- 交通や周囲の妨げになっていないか、よく確認してから駐車するようにしましょう。

10. 乗車前点検とメンテナンス

(下記のコンポーネント配置図をご参照ください)

§日常点検§

点検項目		注意点
エンジンオイル		量は十分か？
燃料		量は十分か？ オクタン価90以上
ブレーキ	フロント	かけた時の状態はどうか？ (レバーの遊び:10~20mm)
	リア	かけた時の状態はどうか？ (ペダルの遊び:20~30mm)
タイヤ	フロント	空気圧は正常か？ (標準値:1.75kg/cm ²)
	リア	空気圧は正常か？ (標準値:2.0 kg/cm ² /1人、2.25 kg/cm ² /2人)
ハンドル		ハンドルに異常な振動や変形(カーブでの違和感)はないか？
スピードメーター、 ライト、ミラー		正常に機能しているか？ ライトは点灯するか？ ミラーの視認性に問題はないか？
各部の締結		ネジやナットは緩んでいないか？
異常箇所		過去の異常箇所に問題はないか？

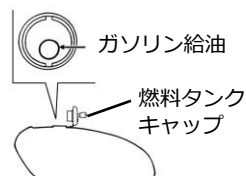
⚠ 注意:

- 日常点検の際に見つかった異常は放置せず、スクーターを使用する前に修理してください。必要に応じて、SYM正規販売店にて修理することをお勧めします。

§燃料の点検§

目的地まで燃料の量は十分か点検します。

- このオートバイのエンジンは、オクタン価90以上の無鉛ガソリンを使用するように設計されています。
- 地面にメインスタンドをしっかりと立て、エンジンを停止させます。給油中は火気や火の気ものは絶対に近づけないでください。
- 燃料タンクキャップを回しながら開け、給油してください。
- 上限ラインを越えて給油をしないでください。
- 給油後は燃料コックを回して“ON”の位置にしてください。



⚠ 注意:

- 給油時はエンジンを停止させ、火気や火の気のない場所で給油してください。
- 給油後は、燃料タンクキャップをしっかりと閉めてください。

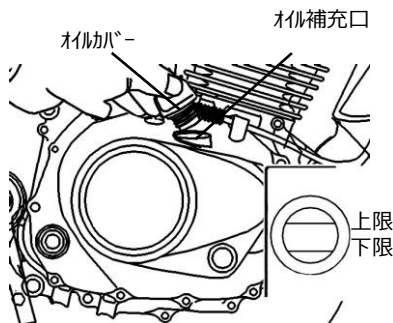
漏れはないか

燃油カップやタンク、チューブなどに漏れはないか確認しましょう。

§エンジンオイルの点検と交換§

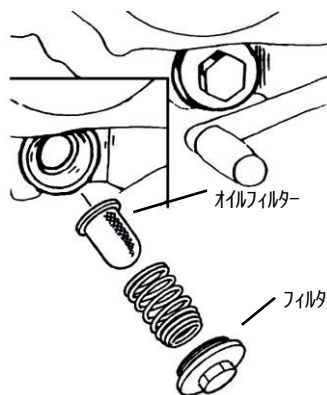
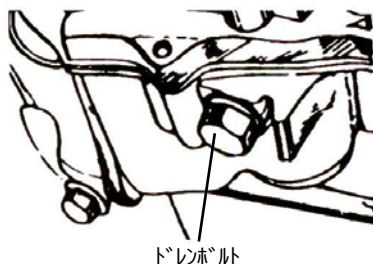
● 点検:

1. メインスタンドで車両を平坦な場所に静置させます。エンジンを停止させて3~5分おいてからオイルカバーを取り外します。
 2. のぞき窓から目視で、オイルレベルが上限と下限マークの間にあるかどうか点検します。
- 下限よりオイルレベルが下がっていたら、上限までオイルを補充してください(シリンダーやクランクケース、その他に漏れがないか確認しましょう)。



● オイル交換:

- 交換周期: 新車の場合は最初の300kmで、その後は1000kmごとに交換してください。
- 埃っぽい場所や寒冷地での使用が多い場合は、より頻繁に点検してください。
- エンジンを最良の状態でご使用いただくために、500kmごとにオイル量点検を行ってください。足りない場合は、上限ラインまで補充しましょう。
- エンジンオイル: API SJ MA 10W-30以上のグレードのエンジンオイルを使用してください。仕様以外のオイルによる損傷は保証の対象になりません(推奨オイル: MOTUL 5100 4T 10W40)。
- オイル容量: 1.2 リットル (点検時交換: 1リットル)、オイルフィルター交換: 1リットル
- 外気温が零下(0℃以下)のときは、SAE 5W-40 を使用してください。

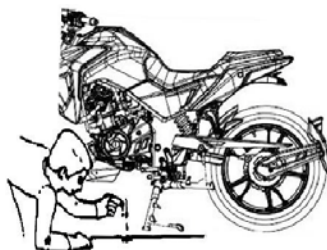


【オイルフィルターの清掃】

オイルフィルターはエンジンの左側、チェンジペダルの近くにあります。フィルターナットの組み立てを外し、フィルターを外します。ガソリンやエアスプレーガンを利用して異物を除去してください。

⚠ 警告:

- オートバイを平坦でない場所に置いたり、エンジン停止直後では、正しいオイルレベルを計ることができません。
- エンジン停止直後は、エンジンやマフラーは非常に熱くなっています。エンジンオイル点検や交換の際は、火傷をしないように十分に気をつけてください。
- 補充後にもかかわらずオイルレベルがすぐに下限に近づいてしまう時は、オイル漏れしていないか確認してから再び補充してください。
- エンジンオイル補充時は、火気や火のものを遠ざけるようにしましょう。
- オイル補充後は、ドレンボルトとオイルゲージをしっかりと取り付けましょう。



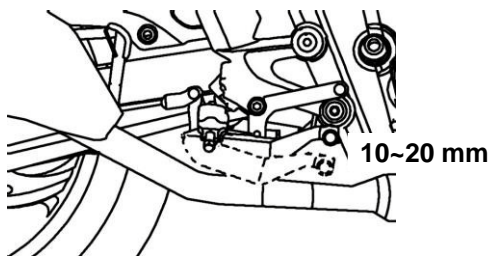
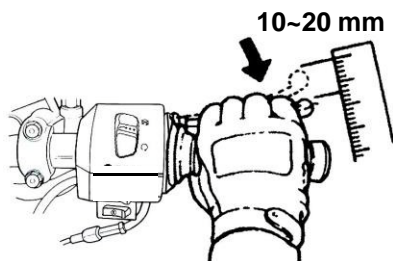
§ブレーキの遊び点検§

点検: (ブレーキレバー、ブレーキペダルの点検は必ずエンジンを停止してから行ってください)

- フロントとリアのブレーキレバーとペダルの遊び。

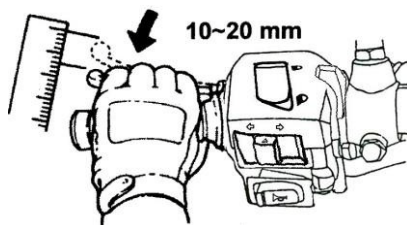
フロントタイヤのブレーキは手元にあるレバーによって動作します。遊び(レバーを握り始めてから実際にブレーキがかかるまでの間隔)は10~20mmくらいです。レバーを握ったとき、もしスポンジのような感触があれば異常な状態です。

リアタイヤのブレーキは、足元のブレーキペダルによって動作します。遊び(ペダルを踏み込んでから実際にブレーキがかかるまでの間隔)は10~20mmくらいです。ペダルを踏んだとき、もしスポンジのような感触があれば異常な状態です。



§クラッチレバー§

クラッチレバーの遊びは概ね10~20mmです。遊びを点検し、必要な時は調整ナットを回して遊びの調整を行ってください。

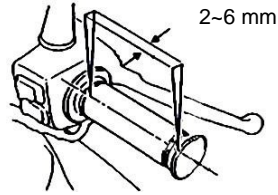


⚠ 注意:

- クラッチは、エンジンの動力をリアタイヤに伝える役目を担っています。クラッチの調整が適切でないと、シフトチェンジが上手くいかなかったりクラッチの滑りが起きる原因になります。
- 調整後は、シフトチェンジがスムーズかどうか必ず確認しましょう。
- クラッチレバーの遊びが大きすぎたり小さすぎたりすると、クラッチプレート損傷の原因になります。

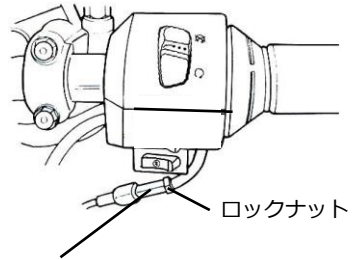
§スロットルの遊びと調整§

- スロットル(グリップ)の適切な遊びは、概ね2~6mmくらいです。
- 初めロックナットを緩めてから、調整ナットを回して調整します。調整後は、ロックナットをしっかりと締めてください。



点検項目:

1. スロットル(グリップ)ケーブルを目視して、閉じた状態から大きく開けた状態でスムーズに動くかどうか点検します。
2. ハンドルを両側に動かしてみて、スロットルケーブルに干渉していないかどうか確認します。
3. スロットルケーブルが他のケーブルによって、スムーズな動きを阻害されていないか目視で確認してください。

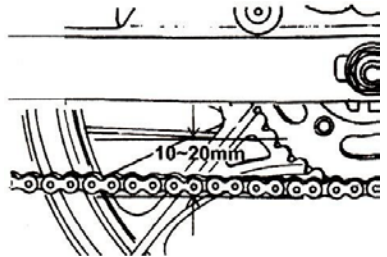


§ドライブチェーン§

ドライブチェーンは使用を続けて行くと、伸びたり緩んだりします。定期的な点検で必ず調整しましょう。

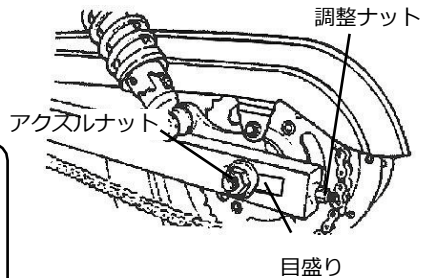
<ドライブチェーン点検>

- ドライブチェーンは、(横から見て)チェーンの中央の弛みが概ね10~20mmくらいかどうか見ます。
- メインスタンドでオートバイを直立させ、リアタイヤを回転させながらチェーンがスムーズか、ノイズ等がないか点検します。
- 不具合があれば、調整を行ってください。



<ドライブチェーン調整>

1. リアタイヤのアクスルナットを緩めます。
2. 調整ナットを回して調整します。調整後は、アクスルナットをしっかりと締めてください。
3. リアブレーキペダルの遊びを確認し、必要であれば調整します。

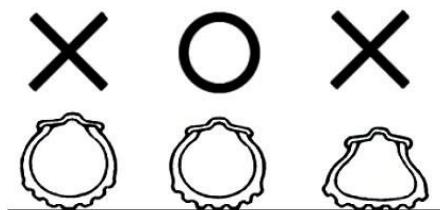


⚠ 注意:

- 左右のアジャスターによる調整量は、同じでなければいけません。
- ドライブチェーンは、頻りに清掃や潤滑を行ってください。

§タイヤの点検§

- タイヤ点検と空気を入れるときは、エンジンを停止させて行ってください。
- 地面に設置しているタイヤの曲面が異常な場合は、エアゲージで空気圧を測定し、足りない場合は指定タイヤ空気圧値を参考にして空気を入れてください。
- エアゲージでタイヤ空気圧を測定するときは、タイヤが冷えているときに行ってください。



指定のタイヤ空気圧標準値を参照してください



正面と側面から、ひびや損傷がないか目視で確認します。

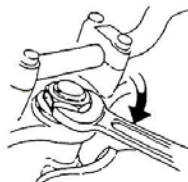
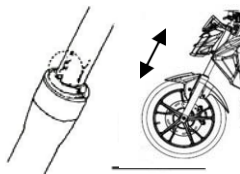
- 釘や小石が、溝に刺さったり挟まったりしていないか、目視で確認します。
- 「摩耗インジケータ(スリップサイン)」を目視し、溝が減っていないか確認します。
- インジケータの摩耗線が見えてきたら、速やかに新しいタイヤと交換してください。

⚠ 注意:

- 空気圧の異常や摩耗、ひびなどは、ハンドルのコントロールを失ったりタイヤのパンクを引き起こしたりする重大な原因になります。

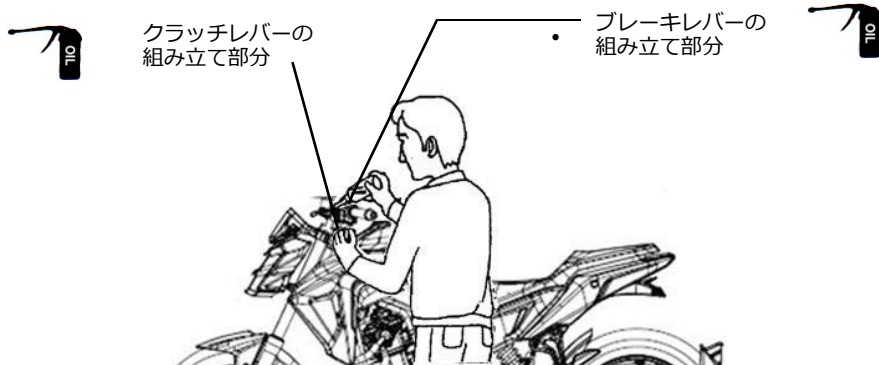
§フロントショックアブソーバーの点検§

- 点検をするときは、エンジンを停止させイグニッションキーは抜いておいてください。
- アブソーバーに損傷はないか、目視で確認します。
- ハンドルを上下に動かし、ノイズや歪み(曲がり)がないか確認します。
- レンチを使用して、アブソーバーのボルトやナットはしっかり締まっているか確かめます。
- ハンドルを上下左右・前後にゆすり、緩みはないか、抵抗は強すぎないか、片方に偏っていないか点検します。
- ハンドルがブレーキケーブルで引っ張られすぎているか確認します。
- 異常がある場合は、オートバイをSYM正規販売店にて点検、調整を行ってください。



§車両各部の潤滑点検§

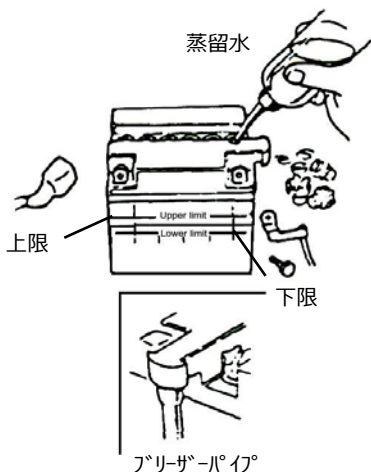
- 車両の各枢軸部分(回転部)の潤滑は十分か点検します。
(例えば、メインスタンドやサイドスタンドの回転軸、ブレーキレバーなど)



§バッテリーの点検とメンテナンス§

電解液は蒸発しますので、定期的に点検をして補充することが必要です。異常が見つかった場合は、SYM正規販売店にて点検・修理を受けてください。

- リアシートを外して、電解液レベルが上限と下限の間にあるか確認します。
- 電解液レベルが下限より下がっていたら、バッテリーを取り出してそれぞれの区画からキャップを外し蒸留水を上限まで補充します。



(バッテリー端子の清掃)

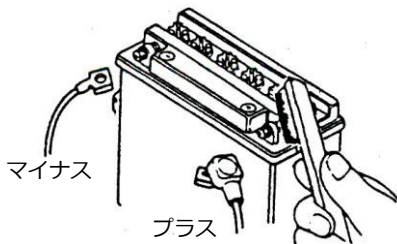
バッテリー端子を外して、埃や腐食があれば清掃します。

バッテリーの取り外し手順は以下の通りです:

イグニッションスイッチを“OFF”の位置にして、マイナスケーブルのネジを最初に外してから、マイナスケーブルを外します。それから、プラスケーブルのネジを外して、プラスケーブルを取り外します。

⚠ 注意:

- バッテリー電極に白い粉が付着していたり腐食していたら、お湯を使って清掃します。
- 端子が明らかに腐食していたら、ケーブルを外してスチールブラシや紙やすりなどできれいに擦り取って掃除します。
- 清掃した後はケーブルを取り付け、端子に薄くグリスを塗っておくと良いでしょう。
- バッテリー取り付けは、取り外しと逆の手順で行ってください。



⚠ 注意:

- 長期間オートバイに乗らないときは、バッテリーの漏電や放電を防ぐためにオートバイからバッテリーを外し、満充電してから換気の良い薄暗い場所に保管してください。
オートバイに積載した状態で置く時は、マイナスケーブルをバッテリーから外してください。
- バッテリー交換が必要なときは、同じタイプのバッテリーと交換してください。
- 電解液レベルを確認するときは、オートバイを平坦な場所に立てて行わないと正しいレベルを確認できません。
- 蒸留水補充は入れすぎないようにしてください。こぼれた強酸によりパーツが腐食する恐れがあります。
- バッテリーの作業を行っているときは、火気や火花は遠ざけてください。
- ブリーザーパイプが詰まらないように気を付けましょう。
- ブリーザーパイプが詰まると、バッテリー内圧が上がりバッテリー故障の原因になります。
- 電解液が目や肌に触れないようにしましょう。触れてしまった場合は速やかに水で洗い流し、医療の診察を受けましょう。
- 取り外しや取り付けの際は、極性を間違わないように気を付けましょう。

§ヒューズの点検と交換§

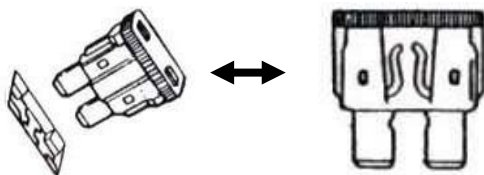
ヒューズ点検をするときは、メインスイッチをオフにしましょう。交換するヒューズは、仕様に合ったものを交換してください。容量の異なるヒューズは使用しないでください。銅線や他の代用品を、ヒューズの代わりに使用しないでください。

- 左のサイドカバーを外すと、バッテリーの近くにヒューズホルダーがあります。
- ヒューズホルダーを開けヒューズを取り出して、壊れていないか点検します。

交換の際は、ヒューズはワイヤーコネクタでしっかりと取り付けてください。取り付けが緩いと、負荷がかかり損傷の原因になります。

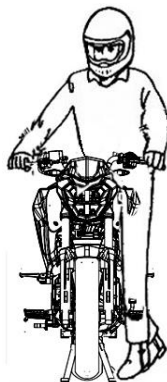
電球のような電装品は、必ず仕様に合ったものを使うようにしてください。仕様に合わないものは、ヒューズがとんだりバッテリーの過放電を起こす原因になります。

- 洗車するときは、ヒューズボックスに水がかからないように気を付けましょう。
- ヒューズを交換してもすぐに切れてしまうときは、再度交換する前にその原因を調べましょう。
- ヒューズが飛んでしまう原因が不明な場合は、お近くのSYM正規販売店にお尋ねください。



§ターンシグナルライトとホーンの点検§

- イグニッションキーを“ON”の位置にします。
- ターンシグナルライトをオンにして、前後左右のシグナルライトが点滅するか、警告ブザー(ウィンカーブザー)が鳴るか点検します。
- ターンシグナルライトのカバーに汚れやひびはないか、緩んでいないか確認します。
- ホーンボタンを押して、音が鳴るか確認します。

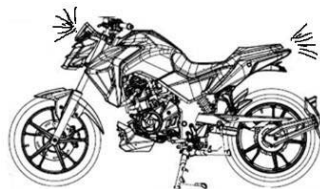


⚠ 注意:

- 電球等は仕様にあったものをお使いください。合わないものを使用すると、ターンシグナルが正常に動作しない恐れがあります。
- 右左折や車線変更時は、必ずターンシグナルを点滅させて後続車に合図してください。
- 後続車や他のドライバーに誤解を与えないように、ターンシグナルは使用したら速やかにボタンを押して解除してください。

§ヘッドライトとテールライトの点検§

- イグニッションスイッチをオンの位置にします。ヘッドライトとテールライトのスイッチをオンにして、ライトが点灯しているか確認します。
- ヘッドライトを壁に向けて照らし、明るさや角度が適切か確認してください。
- ライトのカバーに、汚れやひび、緩みがないか点検します。



§ブレーキライトの点検§

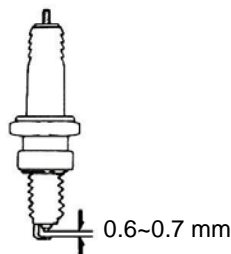
- イグニッションスイッチキーを“ON”の位置にして、右手レバーは引き、右足ペダルは踏んで、ブレーキライトの点灯を確認します。
- ブレーキライトカバーに、汚れやひび、緩みがないか点検します。

⚠ 注意:

- 電球の玉切れや電装系統の故障、バッテリーの過放電などにつながる恐れがありますので、電球を交換する際は必ず仕様にあったものを使うようにしてください。
- 過負荷や回路がショートを起こし、車両火災など深刻な事態を引き起こす可能性がありますので、車両の改造や電装系統の無理な増装は絶対にしないでください。

§スパークプラグの点検§

- 電極が極端に汚れていたり、ギャップが多すぎると故障の原因になりますので、定期的な点検と調整が必要です。
- スパークプラグケーブルのキャップを外します(ツールキット内のスパークプラグレンチを使用してください)。
- 電極に、汚れやカーボンが付着していないか確認します。
- ガソリンのついたスチールブラシなどで電極のカーボン堆積物を除去し、乾いた布などでよく拭き取ってください。
- 電極を点検し、ギャップは0.6~0.7mm(フィーラーゲージで確認)に調整しましょう。
- 手でしっかりとスパークプラグを締めてから、レンチでさらに1/2~3/4回転締めて固定してください。



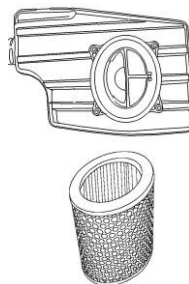
⚠ 注意:

走行後はエンジンが非常に熱くなっていますので、火傷を負わないように注意してください。
※必ず、エンジンの仕様にあったスパークプラグだけを使用するようにしてください(仕様書を参照のこと)。

§エアクリーナーの点検§

エアクリーナーが埃などで詰まっていると、エンジンのパフォーマンスや燃費の低下を招きますので、必ず定期的な点検を行いましょう。

1. フロントシートを外します。
2. ネジを4ヶ所外して、エアクリーナーカバーを取り除きます。
3. エアクリーナーエレメントを取り出して、エア・ガンで埃を除去します。

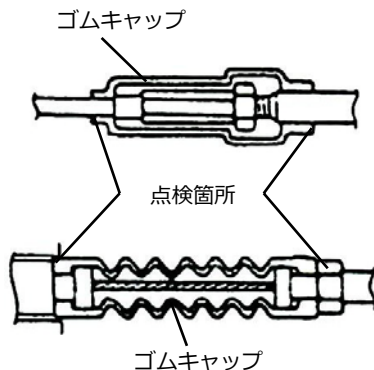


⚠ 注意:

- 埃の堆積は、エンジンの出力や燃費の低下を招く主要な原因です。
- エンジンの寿命をより長く保つためにも、埃っぽい場所を走行することが多い場合は、定期的な点検を頻繁に行うようにしてください。
- エアクリーナーの取り付けが不完全だと、埃がシリンダー内に入り込み、摩耗を進行させたり出力の低下を招き、エンジンの寿命を縮める原因になります。
- エンジンがかかりにくくなる原因となりますので、洗車をするときにはエアクリーナーに水が入ったり、浸かることのないように十分注意しましょう。

§ワイヤー部分のゴムキャップ§

ゴムキャップは、ワイヤー系統のワイヤーを保護するために使用されています。設置場所がずれたりしていないか、頻繁に確認をしておきましょう。洗車の際に、強い水圧をかけたりブラシで強くこすったりするのは止めましょう。ワイヤー系統が汚れた場合は、布などで優しく拭き取ってください。



§バックミラー§

シートに腰掛け、ミラーの角度や視認性に問題がないか確認します。

§ライセンス(ナンバー)プレート§

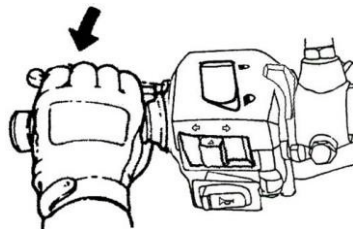
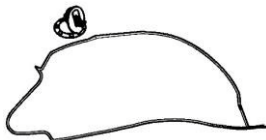
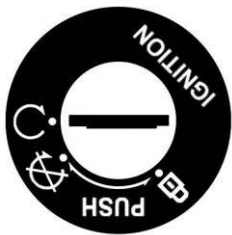
ライセンス(ナンバー)プレートに、泥よごれや損傷がないか、安全に取り付けられているか確認します。

排気に異常はないか確認してください。

故障や不具合のある場所が放置されたままになっていないか、調整や修理が済んでいるか確認してください。

11. 異常や問題が起きた時(トラブルシューティング)

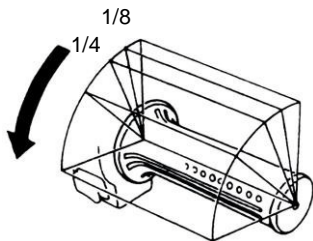
§エンジンが始動しない時の診断§



(1). イグニッションキーは、“ON”位置になっていますか？

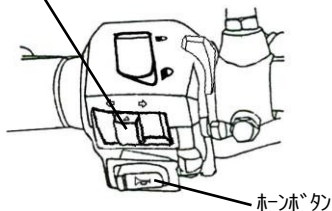
(2). 燃料は、燃料タンクに十分入っていますか？

(3). ギヤはニュートラルに入っていますか？
クラッチレバーは握っていますか？



(4). スターターボタンを押しながら、スロットルを少し開けていますか？

ターンゲルスイッチ



(5). eイグニッションキーを“ON”の位置にして、ホーンボタンを押しても鳴らない場合は、ヒューズが飛んでいる可能性があります。

【上記を確認してもエンジンがかからない場合は、速やかにお近くのSYM正規販売店にて点検してください】

12. 推奨燃料について

- このオートバイのエンジンは、90オクタン価以上の無鉛ガソリンを使用するよう設計されています。
- 標高の高い場所で(気圧の低い場所)車両を使用する場合は、エンジンのパフォーマンスを上げるために燃油圧縮比を調整して使用してください。

13. オートバイに乗るときの注意

1. メインスタンドでオートバイが静置している状態で、シートの左側に立ちます。オートバイを前方に押し、メインスタンドを解除してください。

⚠ 注意:

- エンジンをかけるときは、必ずメインスタンドを解除してから行ってください。

2. 車両の左側からオートバイに乗車します。シートに正しく座り、オートバイが倒れないように右足をしっかりと地面につけてください。

⚠ 注意:

- 発進するまで、フットブレーキ(リア)を踏んでおきましょう。

3. エンジンを始動してクラッチレバーいっぱいに引きます。シフトペダルを踏み下げてギアを一速に入れ、クラッチをゆっくりと放しながらスロットルを開けていくとオートバイが動き出します。

⚠ 注意:

- スロットルを急激に開けてオートバイを急発進させる行為は非常に危険ですので止めましょう。
- 発進するときは、必ずサイドスタンドを払ってから発進してください。

【急ブレーキや急旋回はできるだけ避けましょう】

- 急ブレーキや急旋回は、スリップして転倒する恐れがあります。
- 急ブレーキや急旋回は、雨天時は特にスリップや横滑り、転倒を起こしやすいので気をつけましょう。

【雨の日は細心の注意を払いながら運転しましょう】

- 雨の日や濡れた路面では、乾いた路面よりも制動距離が伸びます。速度は控えめに、早めのブレーキを心がけて運転しましょう。
- 下り坂を走行する際は、スロットルを戻して適切にブレーキをかけながら速度を抑えて運転しましょう。

車両の異常や故障

エンジンが始動しない。

走行中にエンジンが停止した。

…などの上記の症状が起こったら、まず初めに下記の項目を確認してください。

1. ガソリンはタンクに入っているか?
2. エンジン始動の必要手順を正しく行ったか?

(エンジンストップスイッチの確認など)

自身で確認しても原因がわからない場合は、

速やかにSYM正規販売店にて点検を受けてください。



§アンチロックブレーキシステム§

ABSは、車輛をまっすぐ走らせているとき、激しいブレーキングを行っても、ホイールがロックすることを防ぐよう設計されています。ABSは、自動的にブレーキ力を調節する仕組みです。断続的にグリップ力と制動力を得ることは、ホイールがロックしてしまうことを防ぎ、停止しながら安定したステアリング制御を可能にします。

ブレーキの操作方法は従来のオートバイと同じです。フロント・ブレーキにはブレーキレバーを、リア・ブレーキにはブレーキ・レバーあるいはブレーキ・ペダル（車種によって異なります）を使用します。

ABS は、ホイールがロックしてしまうことを防ぐことで、停止しながら安定性を提供しますが、次のような特性をも兼ね備えていることを、覚えておきましょう。

- ・ ABS は、ぬれた路面などの厳しい道路状況や運転者による誤った判断、またはブレーキの不適切な使用を補償するものではありません。運転者は、ABS を装備していない車両と同じ注意を払う必要があります。
- ・ ABS は制動距離を短くするには設計されていません。水や泥で緩んだ路面や、オフロードのような不整地、あるいは下り坂などでは、ABS を搭載した車両の制動距離は、ABS なしの同等の車両のそれよりも長くなる可能性があります。
- ・ ABS は、正立状態におけるブレーキ時のホイールロックを防ぐことに役立ちますが、コーナリング中のブレーキによって引き起こされるホイールスリップを制御することはできません。角を曲がるときは、前後のブレーキを軽くかけるか、もしくはブレーキをかけないで運転する方が安全です。コーナーに入る前に十分にスピードを落としましょう。
- ・ ABS を制御するコンピュータは、車両の速度とホイールの回転速度とを常時モニタリングしています。非推奨タイヤを使用していると、ホイールの回転速度が設計時と異なる恐れがあり、このためコンピュータが混乱し、制動距離をさらに引き延ばす恐れがあります。



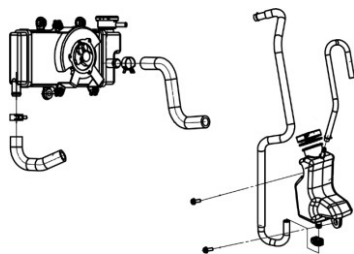
注意:

ABSは、起こりうる全ての危険からライダーを保護するものではなく、またこれがあれば安全運転ができるというわけではありません。ABSシステムの動作方法や、ABSによってできることの可否などを十分に理解した上で活用しましょう。ABSに頼りすぎることなく、天候や路面の状況に十分留意を払い、交通状況をよく見極めて適切な速度で運転することはライダー自身の責任です。

冷却システムの点検(MG20BW-EUモデル)

(冷却システムからの漏れはないか点検する)

1. メインスタンドで車両を平坦な場所に静置します。
 2. 覗き窓からリザーブタンク内を目視して、クーラント液レベルが上限と下限のラインの間にあるか確認します。
 3. クーラント液レベルが下限近くに下がっていたら、上限ラインまで補充してください。
(冷却システムからの漏れがないか確認)
- ラジエーター、パイプなどからの漏れはないか。
 車両を静置していた地面に、液漏れの跡がないか確認する。



クーラント液の交換

ラジエーターキャップは常にしっかりと閉めておいてください。

1. 平坦な場所に車両を静置させ、まっすぐに立てます。
 2. バッテリーキャビネットを開けます。
 3. サージタンクのキャップを開け、クーラント液を上限マークまで補充します。
- クーラント液の減少が頻繁に起こるようだと、システムそのものに何か不具合があることを意味します。
 - ラジエーターの腐食等を避けるためにも、クーラント液は仕様に合ったものを使いましょう。

推奨クーラント液: JAS LLC 50%

注意:

- クーラントを薄める場合は、一般の水道水（軟水）を使用してください。
- 品質の悪いクーラントを使用すると、ラジエーターの寿命が短くなる場合がありますので注意してください。
- クーラントは通常、年に一度交換する必要があります。
- リザーブタンクにクーラントを補充することを忘れずに。
- 冷却システムのメンテナンスは、車両から特にシステムを取り外すことなく行えます。
- クーラントを車体の表面や塗装部分にこぼさないよう注意してください。
- 冷却システムのメンテナンス後、冷却システムに漏れがないことを確認します。
- エンジンが暖かい時には、ラジエーター・タンクカバーを開けないでください。高温に熱せられたクーラントはやけどを引き起こす恐れがあります。ただし、冷却システムの点検は、エンジンの完全冷却後でなくても行えます。
- 車輛を気温が零度を下回るような条件でご使用になる場合は、冷却水の濃度と温度については、表をご参照ください。

14. 定期メンテナンススケジュール

項目	メンテナンス キロメーター	300KM	毎 1000KM	毎 3000KM	毎 6000KM	毎 12000KM	備考	
	点検項目	初回	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年		
1	エアクリナーエレメント (備考)	I	C			R		
2	オイルフィルター (スクリーン)	C			C			
3	燃料ポンプフィルター		10000KM毎の交換					
4	エンジンオイル	R	I	3000KM毎の交換				
5	タイヤ、空気圧	I	I					
6	バッテリー	I	I					
7	スパークプラグ	I		I		R		
8	キャブレター (アイドルスピード)	I			I			
9	ステアリングベアリングとハンドル	I		I				
10	燃料漏れ点検	I	I					
11	クランクケースのオイル漏れ点検	I	I					
12	ドライブチェーン				I	R		
13	燃料タンクスイッチとライン	I		I				
14	スロットル操作及びケーブル	I	I					
15	エンジンボルトとナット	I		I				
16	シリンダーヘッド、シリンダー、ピストン				I			
17	排気システム/カーボンの清掃				I			
18	バルブクリアランス	I			I			
19	ショックアブソーバー	I			I			
20	フロント/リア サスペンション	I			I			
21	メイン/サイド スタンド	I			I/L			
22	クランクケースブローバイシステム	I		I				
23	クラッチディスク				I			
24	クラッチの遊び	I	I					
25	ブレーキケーブル/ブレーキライニング (パッド)	I	I					
26	各コンポーネントのボルト/ナット	I	I					

☆このメンテナンススケジュールは、毎月1000kmの走行を前提とし、そのどちらか早い方で行うよう設計されています。
 ※お手元の車両最高の状態でお使いいただけるよう、定期的にお買い求めのSYM正規販売店にお持ちになり、点検とメンテナンスを実行してください。

コード: I ~ 検査、清掃、調整 R ~ 交換 C ~ 清掃(必要に応じて交換) L ~ 潤滑

備考: 1. 車両を埃っぽく、あるいは空気の汚染された環境下で使用する場合、エアクリナーエレメントの清掃、交換はより頻繁に行ってください。

2. 車輛を頻繁に高速で使用、また距離が延びる場合、メンテナンスはより頻繁に行う必要があります。

【備考内のメモは、該当するモデルを示すために使用されます。】

15. 仕様諸元 NH X 125

項目	モデル 仕様	ME12B2-EU				
全長		2040±20 mm				
全幅		745±10 mm				
全高		1080±20mm				
軸距 (ホイールベース)		1400±20mm				
車両重量		143±6kg				
冷却システム		空冷				
燃料		無鉛ガソリン				
圧縮率		10.1±0.2:1				
最高出力		8kw/9000 rpm				
最大トルク		9.3N.m/7500 rpm				
始動方式		エレクトリカルスターター				
クラッチタイプ		湿式多板クラッチ				
変速機形式		5段階変速				
ギア比		I:2.769	II:1.882	Ⅲ:1.273	IV:1.13	V:0.96
フロントタイヤ		110/70-17				
リアタイヤ		130/70-17				
タイヤ空気圧		フロント: 標準時 1.75kg/cm ² , リア: 標準時 2.0kg/cm ² (1名乗車時)、2.25kg/cm ² (2名乗車時)				
フロントブレーキ		ディスク式 (直径 288 mm)				
リアブレーキ		ディスク式 type (直径 222mm)				
ヘッドライト ディープ/メインビーム		13.5V 25W/14W				
ポジションランプ		12V 1.5W				
テールライト/ブレーキライト		13.5V 2.5W/5.5W				
ターンシグナルライト		13.5V 1.8W*2/13.5V 1.8W*2				
エンジンオイル容量		1.2L (交換時 1 L)				
燃料タンク容量		11±0.5L				
ヒューズ		15A*2&20A*1&25A*1				
スパークプラグ		CPR8EA-9				
バッテリー容量		12V/6Ah				

15. 仕様諸元 NH T 125

項目	モデル仕様	MG12B2-EU				
全長		2068±20 mm				
全幅		860±10 mm				
全高		1195±20mm				
軸距 (ホイールベース)		1405±20mm				
車両重量		150±6kg				
冷却システム		空冷				
燃料		無鉛ガソリン				
圧縮率		10.1±0.2:1				
最大出力		8kw/9000 rpm				
最大トルク		9.3N.m/7500 rpm				
始動方式		エレクトリカルスターター				
フロントショックアブソーバー		テレスコピックフォーク				
クラッチタイプ		湿式多板ディスククラッチ				
変速機形式		5段階変速				
ギア比		I:2.769	II:1.882	Ⅲ:1.273	IV:1.13	V:0.96
フロントタイヤ		100/90-19 57S				
リアタイヤ		130/80-17 65S				
タイヤ空気圧		フロント: 標準時 1.75kg/cm ² , リア: 標準時 2.0kg/cm ² (1名乗車時)、2.25kg/cm ² (2名乗車時)				
フロントブレーキ		ディスク式 (直径 288 mm)				
リアブレーキ		ディスク式 (直径 222mm)				
ヘッドライト ディープ/メインビーム		13.5V 25W/14W				
ポジションランプ		12V 1.5W				
テールライト/ブレーキライト		13.5V 2.5W/5.5W				
ターンシグナルライト		13.5V 1.8W*2/13.5V 1.8W*2				
エンジンオイル容量		1.2L (交換時 1 L)				
燃料タンク容量		11±0.5L				
ヒューズ		15A*2&20A*1&25A*1				
スパークプラグ		DPR8EA-9				
バッテリー容量		12V/6Ah				

15.仕様諸元 NH X 200

項目	モデル 仕様	ME20BW-ZA					
全長		2040±20 mm					
全幅		750±20 mm					
全高		1080±20mm					
軸距 (ホイールベース)		1400±10mm					
車両重量		142kg					
冷却システム		水冷					
燃料		無鉛ガソリン					
圧縮率		11.1±1					
最大出力		13.5kw/8500 rpm					
最大トルク		15.7 N.m/7500 rpm					
始動方式		エレクトリカルスターター					
フロントショックアブソーバー		テレスコピックフォーク					
クラッチタイプ		湿式多板ディスククラッチ					
変速機形式		6段階変速					
ギア比		I:2.643	II: 1.650	III: 1.318	IV: 1.040	V: 0.96	VI:0.786
フロントタイヤ		110/70-17					
リアタイヤ		130/70-17					
タイヤ空気圧		フロント: 標準時1.75kg/cm ² , Rear: STD 2.0kg/cm ² (1名乗車時) , 2.25kg/cm ² (2名乗車時)					
フロントブレーキ		ディスク式 (直径Ø 260 mm)					
リアブレーキ		ディスク式 (直径Ø 222mm)					
ヘッドライト ディープ/メインビーム		12V 14W/25W LED					
ポジションランプ		12V 1.5W LED					
テールライト/ブレーキライト		13.5V 5.5W LED					
ターンシグナルライト		13.5V 2.5V LED					
エンジンオイル容量		1.2L (交換時1 L)					
燃料タンク容量		11±0.5L					
ヒューズ		15AX3&20AX1					
スパークプラグ		CPR8EA-9					
バッテリー容量		12V/6Ah					

SPECIFICATION NH T 200

項目	モデル	MG20BW-ZA					
	仕様						
全長		2068 mm					
全幅		860mm					
全高		1195mm					
軸距 (ホイールベース)		1405mm					
車両重量		152kg					
冷却システム		4-Stroke engine					
燃料		Unleaded gasoline					
圧縮率		11.1±1					
最大出力		13.5kw/8500 rpm					
最大トルク		15.7 N.m/7500 rpm					
始動方式		エレクトリカルスタート					
フロントショックアブソーバー		テレスコピックフォーク					
クラッチタイプ		湿式多板クラッチ					
変速機形式		6段階変速					
ギア比		I:2.643	II: 1.650	III: 1.318	IV: 1.040	V: 0.889	VI:0.786
フロントタイヤ		100/90-19					
リアタイヤ		130/80-17					
タイヤ空気圧		Front: STD 1.75kg/cm ² , Rear: STD 2.0kg/cm ² 1名乗車時, 2.25kg/cm ² 2名乗車時					
フロントブレーキ		ディスク式 (Ø 288 mm)					
リアブレーキ		ディスク式 (Ø 222mm)					
ヘッドライト ディープ/メインビーム		12V 14W/25W*LED1/LED*1					
ポジションランプ		12V 1.5W LED*2*6					
テールライト/ブレーキライト		13.5V 2.5W/5.5W LED*15					
ターンシグナルライト		13.5V 1.8W LED*2*3					
エンジンオイル容量		1.2L (交換時1 L)					
燃料タンク容量		11L					
ヒューズ		15AX3&20AX1					
スパークプラグ		CPR8EA-9					
バッテリー容量		12V/6Ah					



保証約款

保証の発効

SYMの車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM取扱店」）がSYM保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYMの車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から12か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYMの車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検をSYM正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理はSYM取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYMから使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品をSYMが許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題

機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体の滲みなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状

車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYMが指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及びSYMが指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品

車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失）

SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定にのっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。

モータリスト合同会社